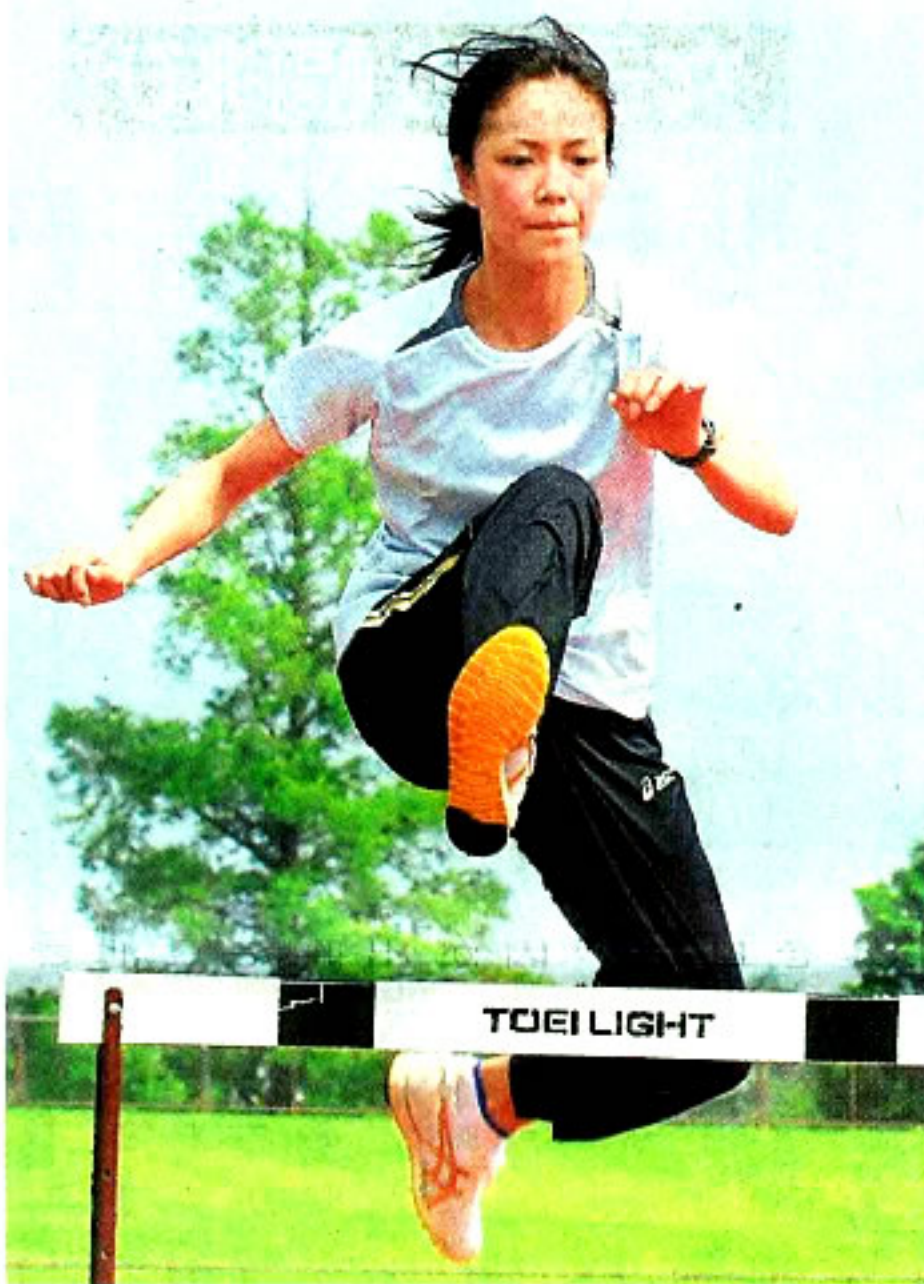


伸び盛り「まだ記録出る」

「実は足が合わなかったんです。だから、まだまだいい記録が出せるはず」。三千円障害に出場したのはわずか3度目の日本選手権（6月）で、参加標準記録Bを0.98秒上回る9分57秒02の自己ベストで切符を手にした辰巳悦加。松江北高―島根大出身、和光アスリートクラブは、自分の走りをこう話す。

女子3000円障害

辰巳悦加（松江北高出身）



世界陸上を前に帰省し、汗を流す辰巳悦加―松江市総合運動公園陸上競技場

目に全日本実業団の八百円で8位に入り、05年の日本選手権同7位など上野監督の指導で着実に力を付けた。

「もともと監督に見てもらった実業団から離れるのに伴い、辰巳も退社した。他の実業団からの誘いもあったが」

「環境が一変したのが今年のため実業団に入った」と、失業保険をもらいながら上野監督が設立した選手2人、コーチら計4人だけのチームで競技を続けている。

三千円障害は今春から取り組んだばかり。4カ月の間に約30秒も記録を伸ばした。世界陸上出場は「プランになかった。ラッキー」と話す。「貴重な経験が積める大会。前回まですかったところを修正できれば、いい結果が出るはず」。大舞台を前に、伸び盛りの25歳は明るく振る舞う。